

1 令和4年度 企業局3会計決算概要

(経営課)

1 工業用水道事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- ・ 総収益は、料金改定による給水収益の増、未利用地の売却等により、前年度から 800 百万円増の 5,321 百万円となった。
- ・ 総費用は、維持管理費の増加等により、前年度から 350 百万円増の 4,521 百万円となった。
- ・ この結果、損益は前年度から 450 百万円増の 800 百万円の黒字となった。
- ・ ふじさん工水においては、事業統合により可能となった水運用の最適化や官民連携手法の導入により更なるコスト削減に努めていく。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

	R4	R3	増 減	備 考
給水事業所数	333	339	△ 6	
有収水量(万m ³)	20,520	22,814	△ 2,294	
収 益 的 収 支	総収益 A	5,321	800	
	給水収益	4,177	324	料金改定による増
	その他	281	△ 5	
	特別利益	863	481	固定資産売却益の増
	総費用 B	4,521	350	
	事務費等	663	70	
	維持管理費	2,236	256	燃料費調整単価上昇による動力費の増
	減価償却費等	1,535	36	
	支払利息	84	△ 14	
	特別損失	3	2	
	損益 A-B	800	450	
	経常収支	△ 60	△ 28	
資 本 的 支	資本的収入	4,537	1,911	投資有価証券の満期償還等
	資本的支出	5,650	1,787	
	建設改良費	2,508	802	静清庵配水管路移設工事(ふじさん)等
	投資	2,200	1,000	収益確保のための投資額の増
	その他	942	△ 15	
	収 支 差 引	△ 1,113	△ 1,237	
資 金	当 年 度	1,056	606	
	累 積	4,110	1,056	
	累積(投資含む)	9,310	8,236	

【参考：事業別の決算状況】

(単位:百万円)

	柿田川	ふじさん	静 清	中 遠	西 遠	湖 西	合計
給水事業所数	4	103	73	55	76	22	333
有収水量(万m ³)	3,656	12,097	1,854	1,226	1,091	596	20,520
収 益 的 支	総収益 A	370	2,538	433	476	1,295	5,321
	総費用 B	413	2,603	433	435	430	4,521
	損益 C=A-B	△ 43	△ 65	0	41	865	800
	前年度損益 D	117	△ 320	35	67	447	350
	増減 E=C-D	△ 160	255	△ 35	△ 26	418	450

2 水道事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- ・ 総収益は、給水収益の減少等により、前年度から 27 百万円減の 6,469 百万円となった。
- ・ 総費用は、維持管理費の増加等により、前年度から 441 百万円増の 5,883 百万円となった。
- ・ この結果、損益は前年度から 468 百万円減の 586 百万円の黒字となった。
- ・ 黒字幅は減少したものの、経営は比較的安定しており、引き続き経営改善の取組を推進し、運営コストの削減に努めていく。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

		R4	R3	増 減	備 考
給水市町数		10	10	0	
有収水量(万m ³)		7,557	7,718	△ 161	
収 益 的 収 支	総収益 A	6,469	6,496	△ 27	
	給水収益	5,851	5,878	△ 27	実給水量の減
	その他	618	618	0	
	特別利益	-	-	-	
	総費用 B	5,883	5,442	441	
	事務費等	730	746	△ 16	
	維持管理費	2,359	1,920	439	燃料費調整単価上昇による動力費の増
	減価償却費等	2,587	2,547	40	
	支払利息	207	229	△ 22	
	特別損失	-	-	-	
損益 A-B		586	1,054	△ 468	
経常収支		586	1,054	△ 468	
資 本 的 支	資本的収入	4,816	1,388	3,428	投資有価証券の満期償還等
	資本的支出	7,226	4,297	2,929	
	建設改良費	1,789	1,655	134	中央処理装置改築工事(駿豆)等
	投資	4,400	1,600	2,800	収益確保のための投資額の増
	その他	1,037	1,042	△ 5	
収 支 差 引		△ 2,410	△ 2,909	499	
資 金	当 年 度	261	215	46	
	累 積	4,703	4,442	261	
	累積(投資含む)	12,504	12,272	232	

【参考：事業別の決算状況】

(単位:百万円)

		駿 豆	榛 南	遠 州	合 計
給水市町数		3	2	5	10
有収水量(万m ³)		947	526	6,084	7,557
収 益 的 支	総収益 A	1,235	454	4,780	6,469
	総費用 B	924	439	4,520	5,883
	損益 C=A-B	311	15	260	586
	前年度損益 D	442	59	553	1,054
	増減 E=C-D	△ 131	△ 44	△ 293	△ 468

3 地域振興整備事業会計

(1) 決算の状況及び今後の見通し

- 令和4年度は、富士大淵工業団地の引渡しを行い、総収益は1,586百万円、総費用は1,577百万円となり、**損益は9百万円の黒字となった。**
- 富士大淵は令和4年7月に造成工事が完了し、同年10月に富士市への引渡しを完了した。
- 牧之原萩間工業用地は令和4年10月に、長泉東野工業用地は令和5年1月にそれぞれ協定を締結し、事業に着手した。

(2) 決算の概要

(単位:百万円)

		R4	R3	増 減	備 考
分譲等区画数		6	4	2	富士大淵(6区画)
収 益 的 収 支	総収益 A	1,586	3,172	△ 1,586	
	土地売却収益	1,542	3,122	△ 1,580	R4:富士大淵、R3:藤枝高田
	その他	3	1	2	
	特別利益	41	49	△ 8	
	総費用 B	1,577	3,047	△ 1,470	
	土地売却原価	1,484	2,913	△ 1,429	R4:富士大淵、R3:藤枝高田
	事務費等	93	134	△ 41	
	特別損失	-	-	-	
	損益 A-B	9	125	△ 116	
	経常収支	△ 32	76	△ 108	
資 本 的 収 支	資本的収入	1,437	343	1,094	牧之原萩間協定締結時申込金等
	資本的支出	203	757	△ 554	
	うち開発整備費	197	711	△ 514	R4:富士大淵造成工事等、R3:藤枝高田・富士大淵造成工事等
	うち補助金	0	25	皆減	
	収 支 差 引	1,234	△ 414	1,648	
資 金	当 年 度	1,186	△ 497	1,683	
	累 積	8,776	7,590	1,186	

【参考：開発整備費の状況】

(単位:百万円)

	事業期間	R1～R3	R4	計	備 考
富士大淵	R1～R4	1,295	189	1,484	セミ・オーダー、R2売買契約締結 R4に6区画の引渡しを完了

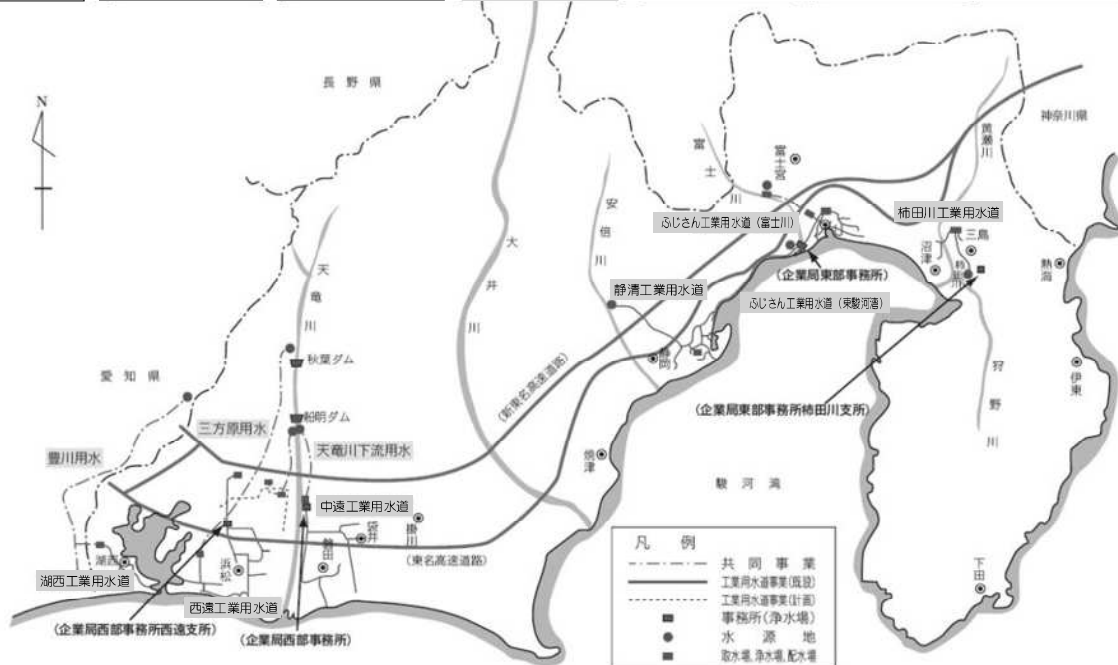
【参考：今後の事業予定】

事 業	R4	R5	R6	R7	…	R14
牧之原萩間	協定締結 実施設計	用地買収	→	造成工事 (R7-R13)	—	引渡し
長泉東野	協定締結	用地買収 造成工事	→	引渡し	—	—

経営状況（工業用水道事業全体）

施設概要

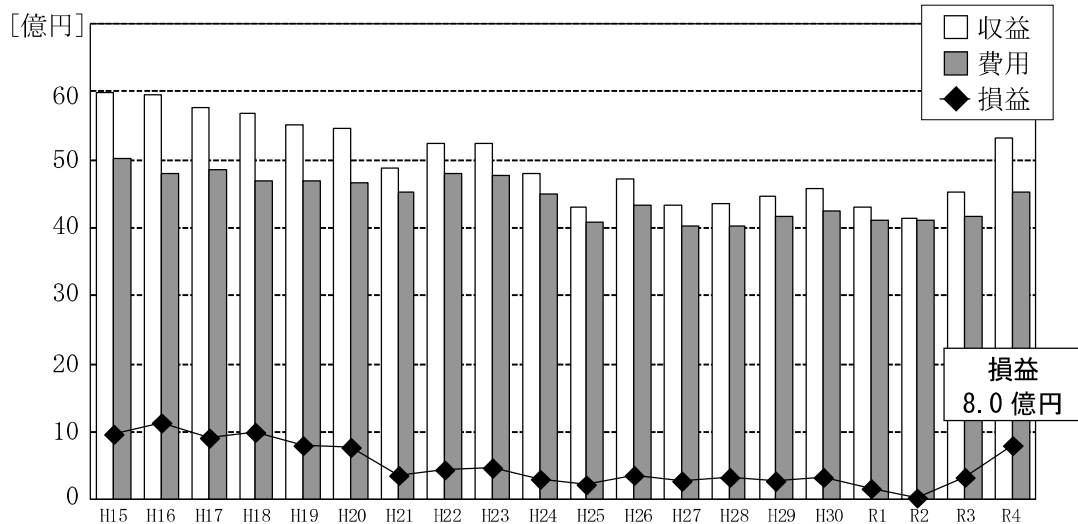
湖西工業用水道 計画給水量（1日最大） 30,690 m ³ /日（1市） 現在給水能力 30,690 m ³ /日（1市）	西遠工業用水道 計画給水量（1日最大） 241,000 m ³ /日（1市） 現在給水能力 172,500 m ³ /日（1市）	中遠工業用水道 計画給水量（1日最大） 175,000 m ³ /日（3市） 現在給水能力 60,000 m ³ /日（2市）	静岡工業用水道 計画給水量（1日最大） 96,000 m ³ /日（1市） 現在給水能力 96,000 m ³ /日（1市）	ふじさん工業用水道 (富士川) 計画給水量（1日最大） 214,000 m ³ /日（1市） 現在給水能力 214,000 m ³ /日（1市）	ふじさん工業用水道 (東駿河湾) 計画給水量（1日最大） 793,100 m ³ /日（1市） 現在給水能力 793,100 m ³ /日（1市）	柿田川工業用水道 計画給水量（1日最大） 100,000 m ³ /日（3市） 現在給水能力 100,000 m ³ /日（2市）
---	---	--	---	--	---	--



【給水能力】 1,466,290 m³/日 R5.3.25 現在
【契約水量】 552,440 m³/日（対能力 38%）R5.3.25 現在
【使用水量】 421,041 m³/日（対契約 76%）R4 年度実績

1 損益

○工水会計全体の単年度損益は、黒字を維持しているが、ピーク時（H5：12.5億）から大きく減少



R4 決算

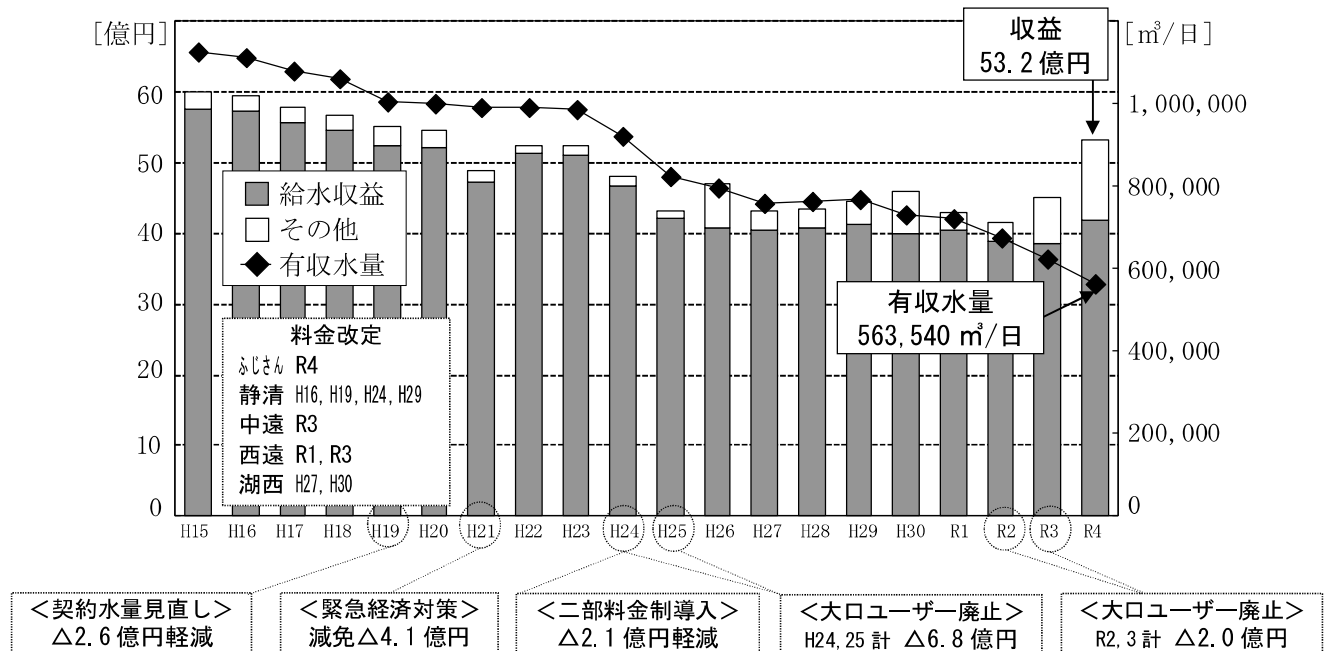
（単位：百万円）

区分	柿田川	ふじさん		静岡	中遠	西遠	湖西	合計
		富士川	東駿河湾					
収益	370	174	2,364	433	476	1,295	209	5,321
費用	413	206	2,397	433	435	430	207	4,521
損益	△ 43	△ 32	△ 33	0	41	865	2	800

(1) 収益

○収益の大半は、ユーザーからの料金収入による給水収益

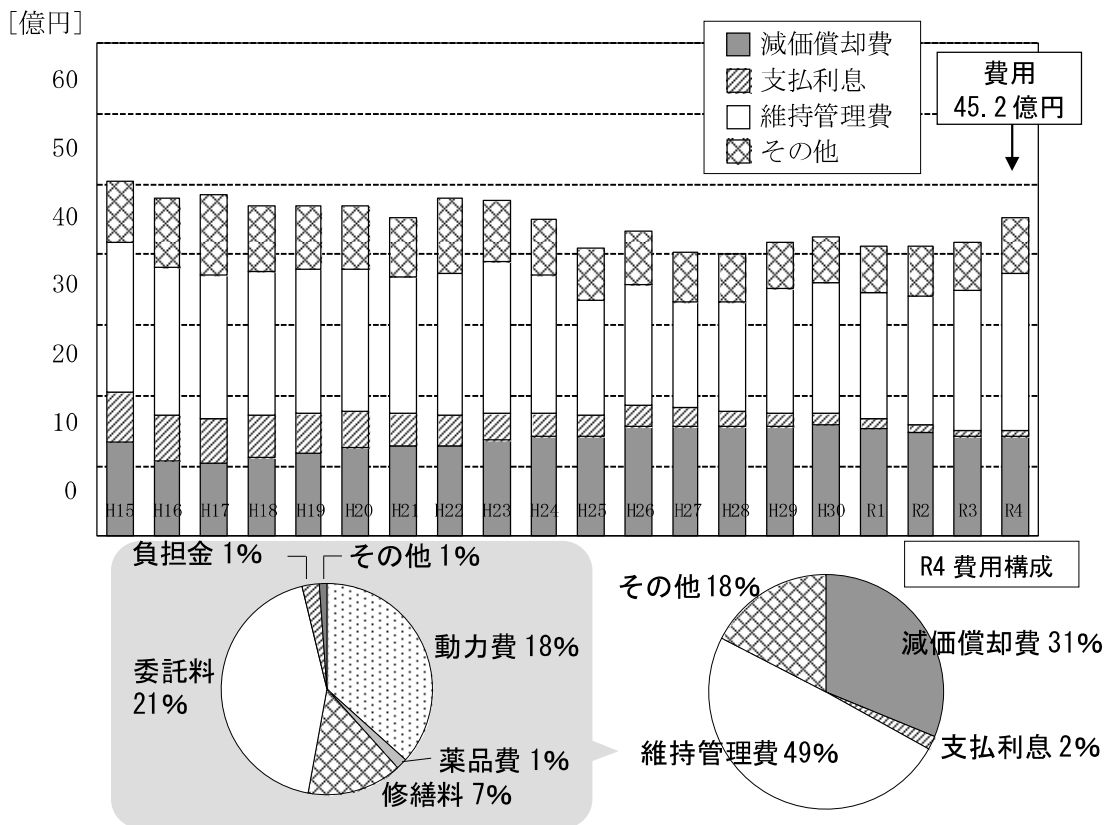
○給水収益の基礎となる有収水量は、ユーザーの利用廃止等により減少傾向



(2) 費用

○支払利息は減少傾向

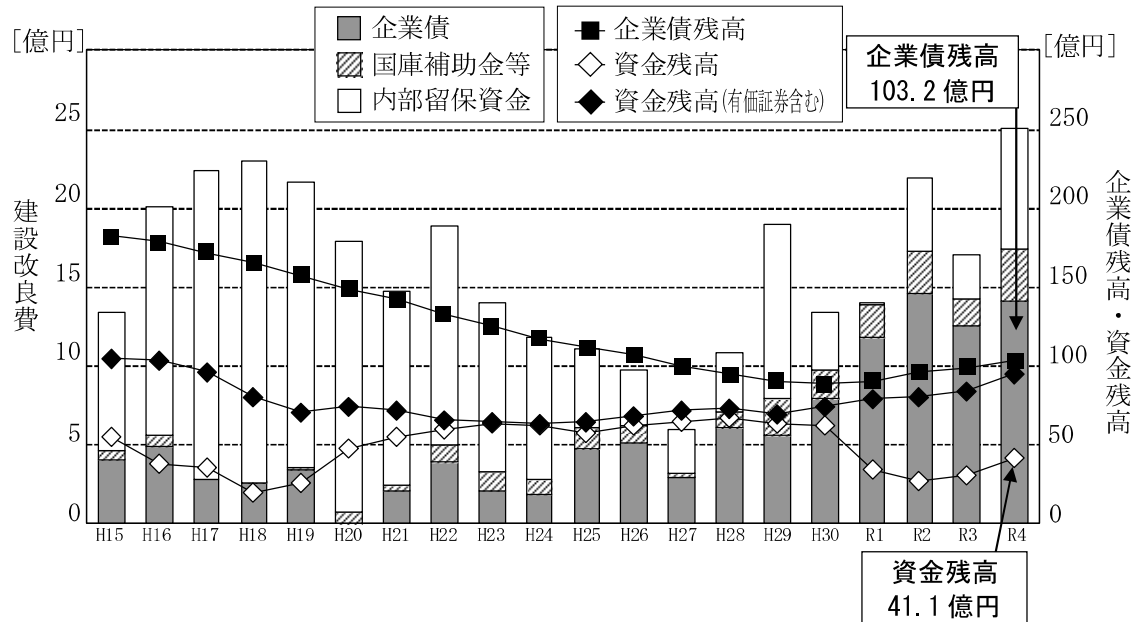
○H27 年度以降は、維持管理費が増加傾向



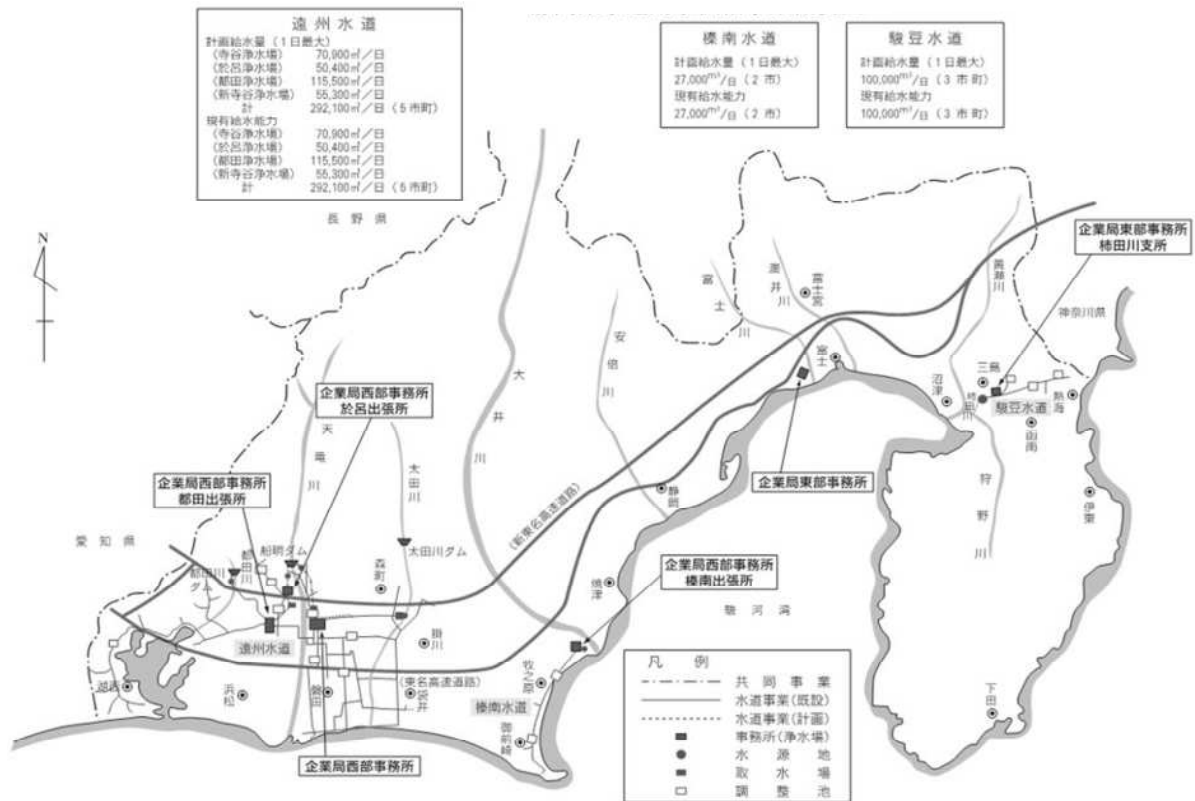
2 建設改良費と企業債残高・資金残高

○H13～H22年度頃にかけては、内部留保資金による建設改良工事を実施していたが、近年は企業債を財源に充当し実施しているため、企業債残高は増加傾向

○資金残高は増加傾向にあり、資金運用のため、H30～R4年度と投資有価証券を購入



経営状況（水道事業全体）

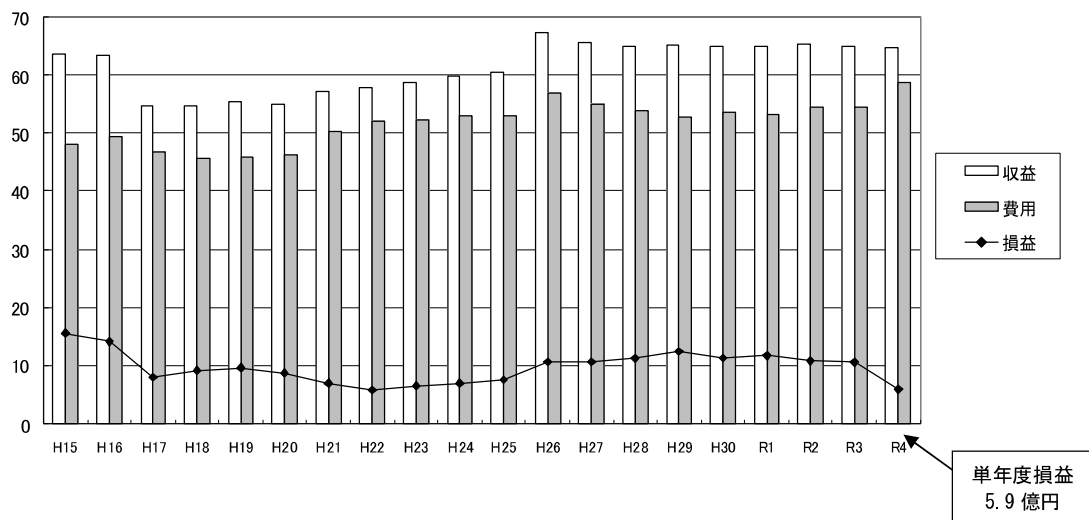


【給水能力】 419,100 m³/日 R5. 3. 25 現在
 【基本水量】 419,100 m³/日（対能力 100%） R5. 3. 25 現在
 【使用水量】 207,027 m³/日（対契約 49%） R4 年度実績

1 損益

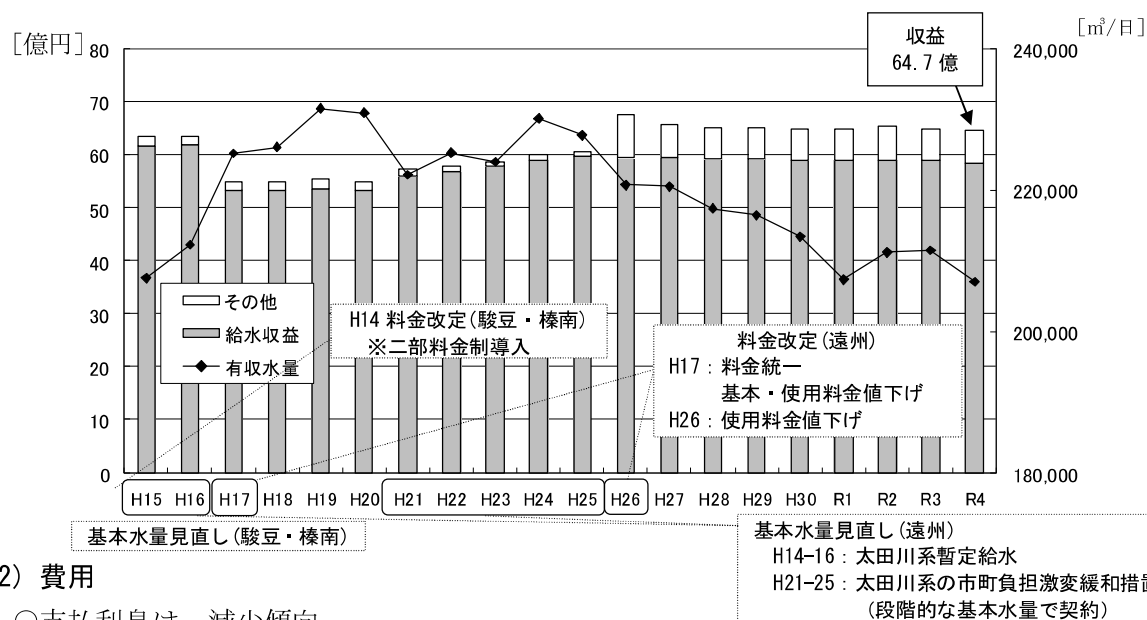
○水道会計全体のうち、遠州水道は収益ベースで7割以上の規模

○損益は概ね7～12億円の黒字を維持



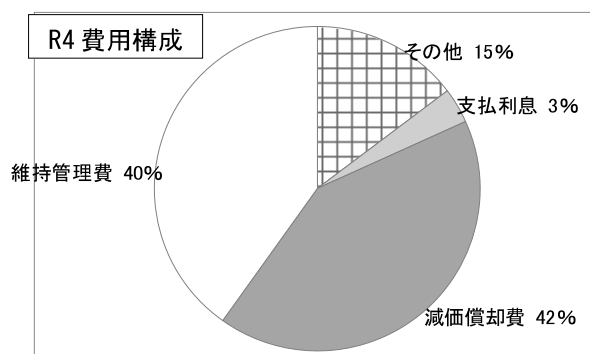
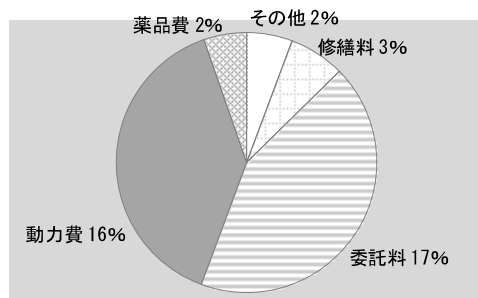
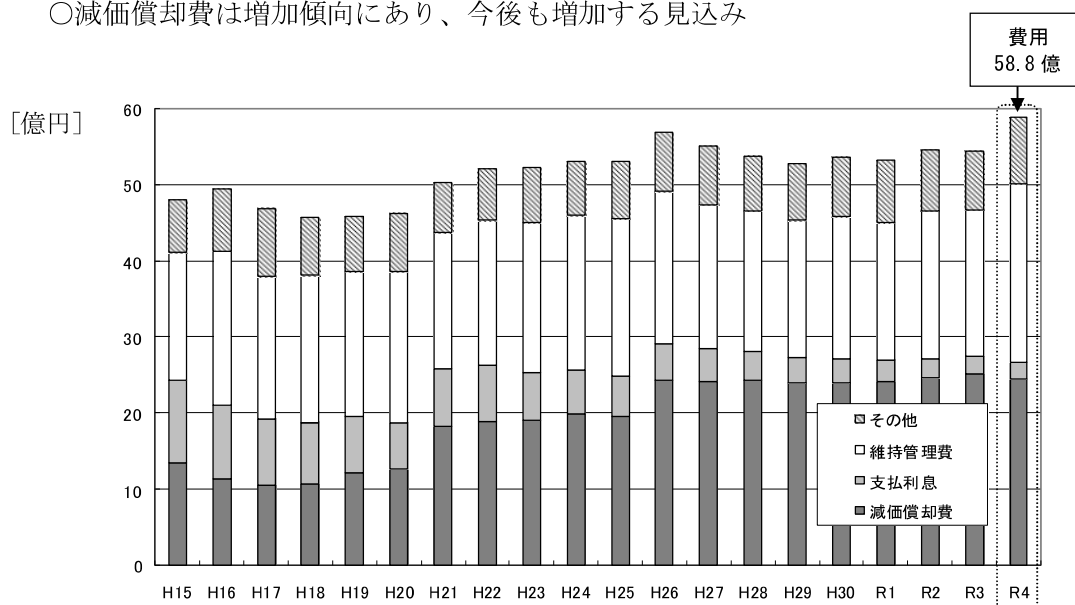
(1) 収益

- 収益の大半は、市町からの水道料金による給水収益
- 給水収益の基礎となる有収水量は、平成25年以降減少傾向
- 給水収益は、概ね55～65億円で推移



(2) 費用

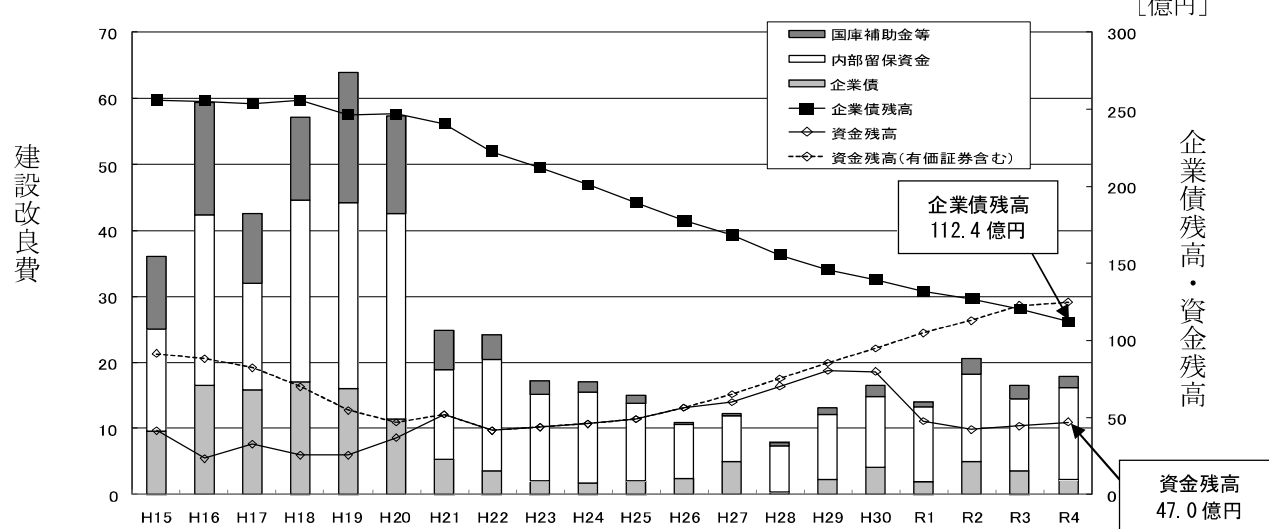
- 支払利息は、減少傾向
- 減価償却費は増加傾向にあり、今後も増加する見込み



2 建設改良費と企業債残高・資金残高

- 平成 20 年度までは国庫補助金等や企業債を財源に充当し、多額の建設改良工事を実施
- 平成 21 年度以降は建設改良投資の減少に伴い企業債残高は減少傾向である。一方、資金残高（有価証券含む）は、増加傾向

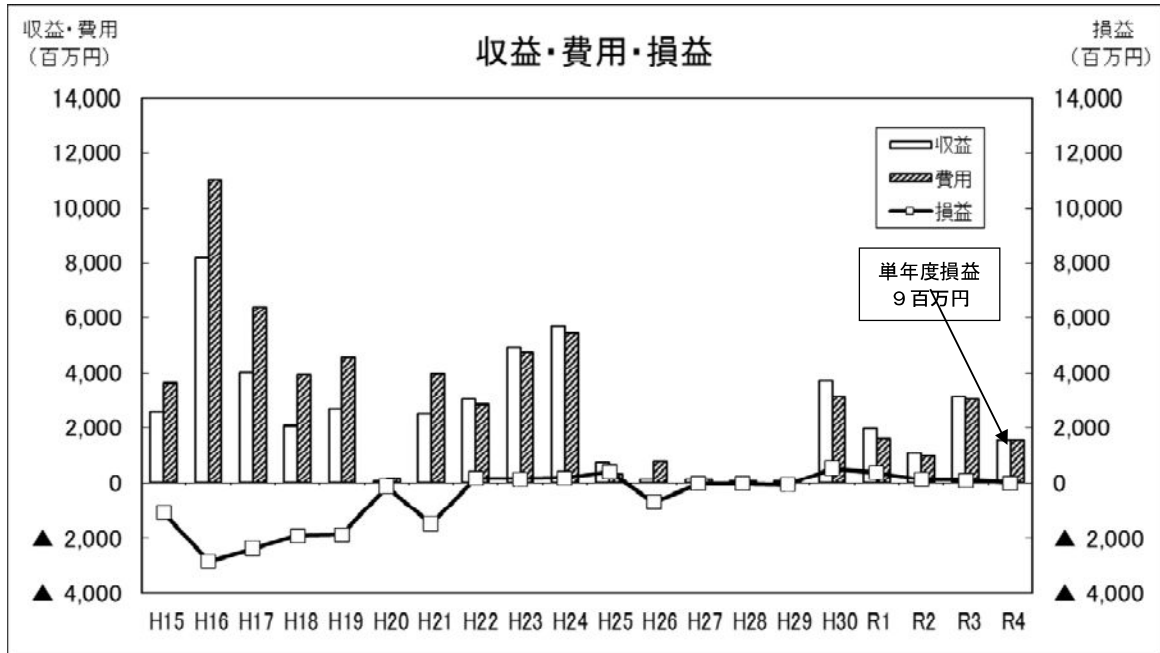
[億円]



経営状況（地域振興整備事業会計）

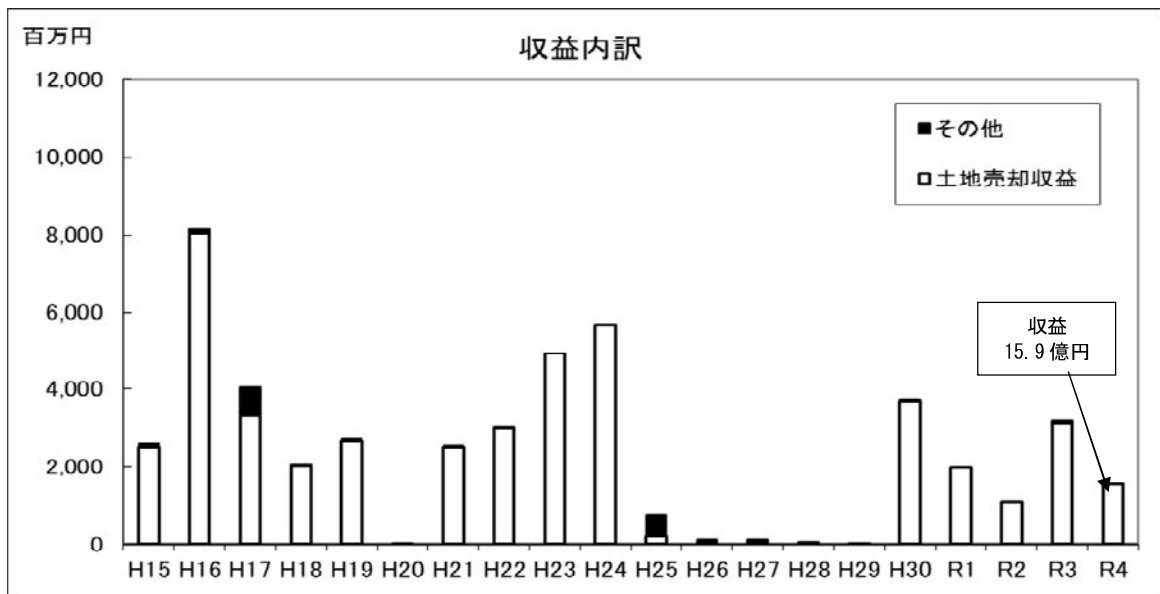
1 損益

- 損益は、バブル崩壊後しばらくの間は原価を割った資産売却により赤字基調で推移
- オーダーメード、セミ・オーダーメード方式導入により団地単位に利益を生む仕組みに改善
- レディーメード方式の「富士山麓フロンティアパーク小山」は内部留保資金の範囲内で実施



(1) 収益

- 収益の大半は工業用地の土地売却収益
- 平成 26～29 年度は、売却用の工業用地がなく、土地売却収益の計上なし
- 平成 30～令和 4 年度は、工業用地売却による土地売却収益を計上

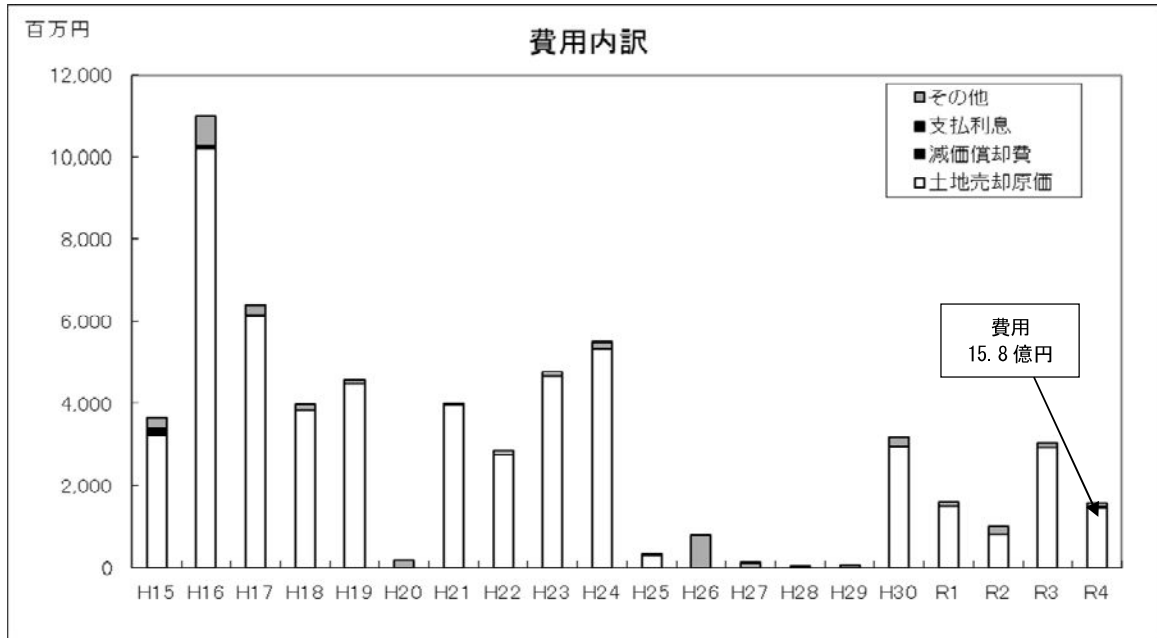


(2) 費用

○費用の大半は工業用地の土地売却原価

○平成 26～29 年度は、売却用の工業用地がなく、土地売却原価の計上なし

○平成 30～令和 4 年度は、工業用地売却による土地売却原価を計上

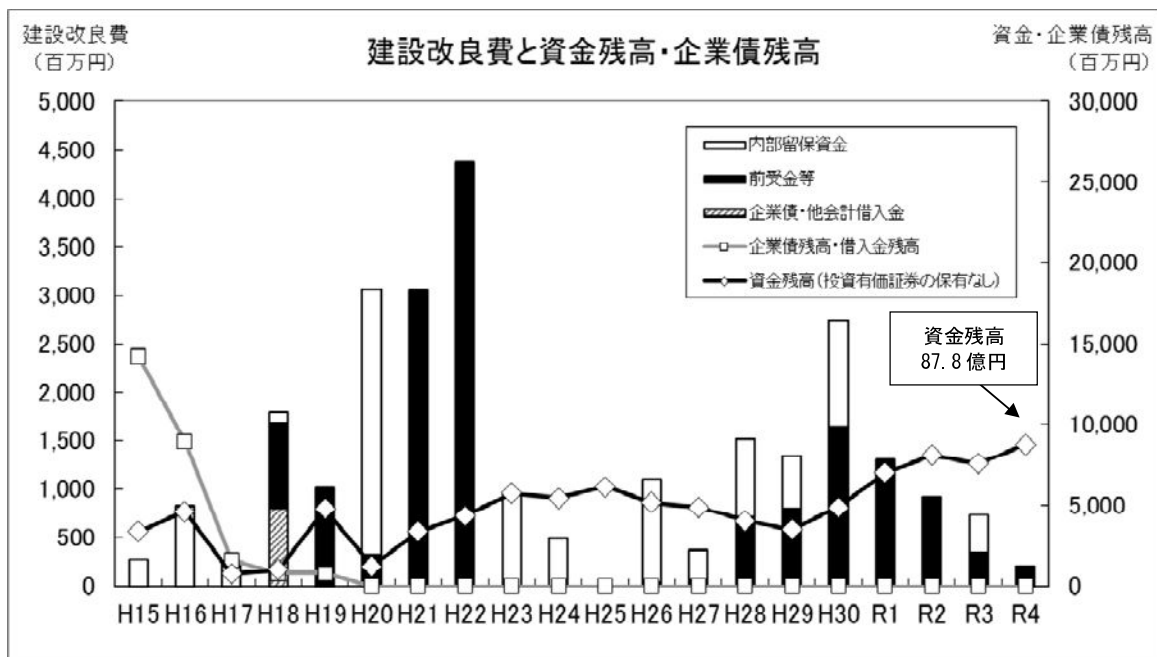


2 建設改良費と資金残高・企業債残高

○平成 26 年度以降の建設改良費は、「富士山麓フロンティアパーク小山」等の工業用地の造成

○資金残高は平成 22 年度以降 40～60 億円で推移していたが、「富士山麓フロンティアパーク小山」の売却（完売）等により 80 億円まで増加

○企業債及び借入金残高は、平成 20 年度までに全て償還し、現在なし



※棒グラフの高さは建設改良費の金額を示し、内訳はその財源を示す。

